

SUNTORY

「サントリー 天然水の森」における 水源涵養活動について

サントリーホールディングス株式会社
サステナビリティ経営推進本部

2026.08.31

COPYRIGHT 2026 © SUNTORY HOLDINGS LIMITED. ALL RIGHTS RESERVED

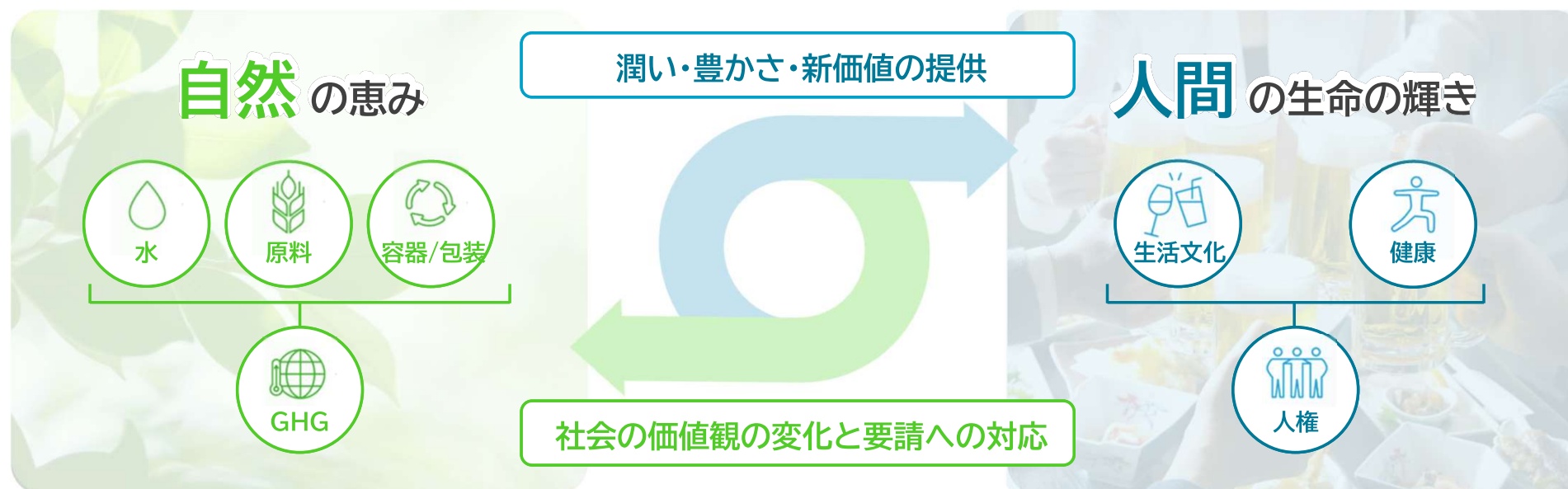
サントリーにとってのサステナビリティ経営

「サステナビリティ」は真新しい考え方ではなく、創業当初からの企業理念の追求そのものです。

わたしたちの目的 Our Purpose サントリーグループが事業を営む目的、企業としてめざす方向性

いのち

人と自然と響きあい、豊かな生活文化を創造し、「人間の生命の輝き」をめざす。



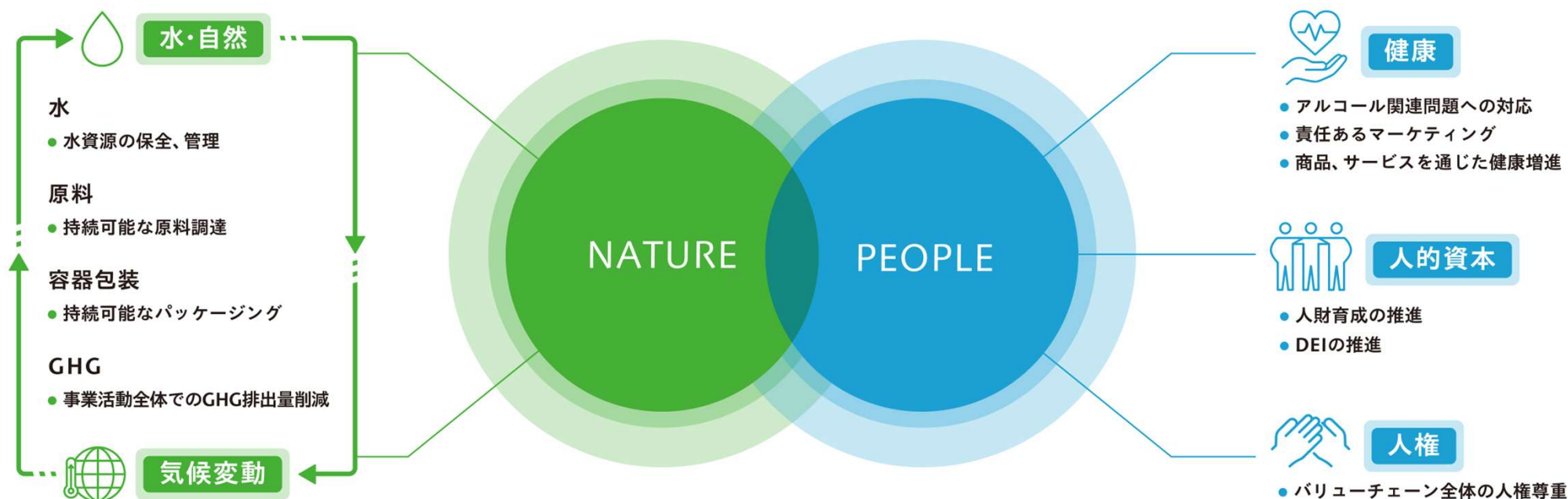
サントリーグループのサステナビリティビジョン

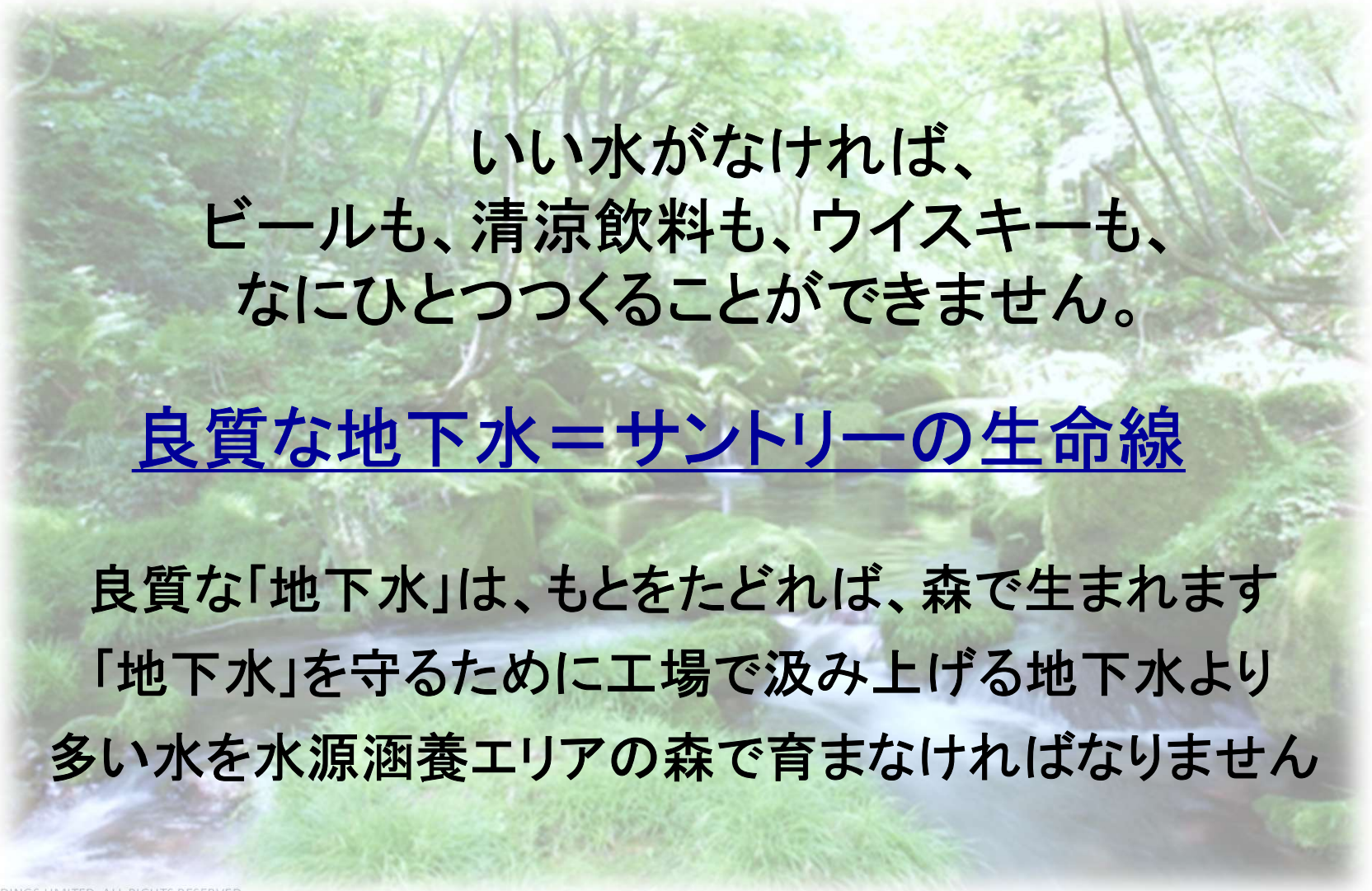
SUNTORY

「人」と「自然」にまたがる、サントリーグループが取り組むべき重要課題を整理し、サステナビリティ活動を推進しています。

人と自然と響きあう社会の実現へ

サントリーグループは、水や農作物などの自然の恵みに支えられた食品酒類総合企業として、**自然環境を守り育む**ことと、**人々の生活を潤い豊かにする**ことが共存する、すべての生命が輝ける社会を、皆さまと共にめざします。





いい水がなければ、
ビールも、清涼飲料も、ウイスキーも、
なにひとつつくることができません。

良質な地下水＝サントリーの生命線

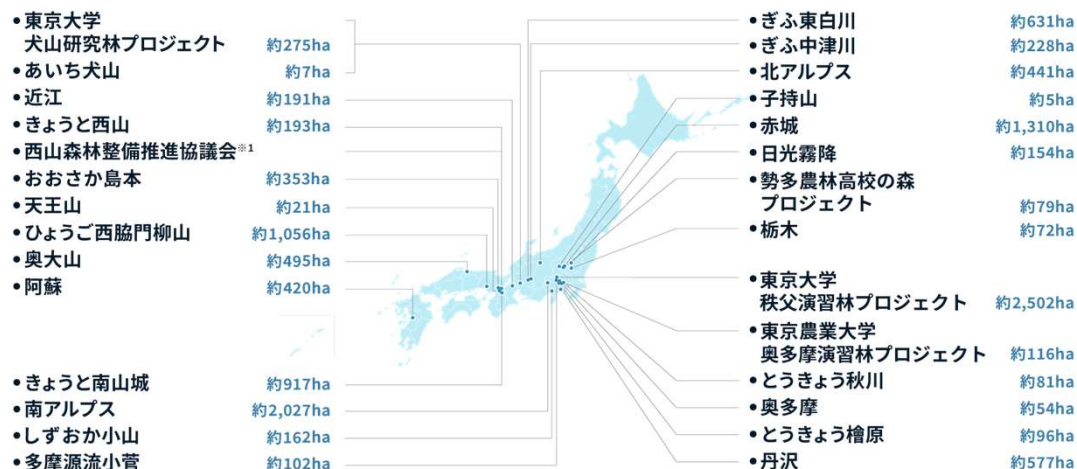
良質な「地下水」は、もとをたどれば、森で生まれます
「地下水」を守るために工場で汲み上げる地下水より
多い水を水源涵養エリアの森で育まなければなりません

「サントリー 天然水の森」活動

SUNTORY

良質な地下水を育むため、工場の水源エリアで行っている、森林と生物多様性を保全・再生する活動です。国内工場で汲み上げる地下水量の2倍以上の水を涵養しています。

● 活動実績 (2026年3月現在)



16都府県・27カ所・12,000ha超(山手線内側の約2倍)

※1 京都府長岡京市では、「西山森林整備推進協議会」のメンバーとして、地域の方々と協働して森林保全活動にあたっています。この活動の面積は「天然水の森」の総面積に算入していません

● 活動のポイント

歴史 2003年、熊本県阿蘇で開始

科学的根拠 40名超の多彩な専門家と共に活動

長期的視点 森ごとに「長期ビジョン」を作成

整備目標

- 高い水源涵養機能を持った森林
- 生物多様性に富んだ森林
- 洪水・土砂災害などに強い森林
- CO2の吸収力の高い森林
- 豊かな自然と触れ合える美しい森林

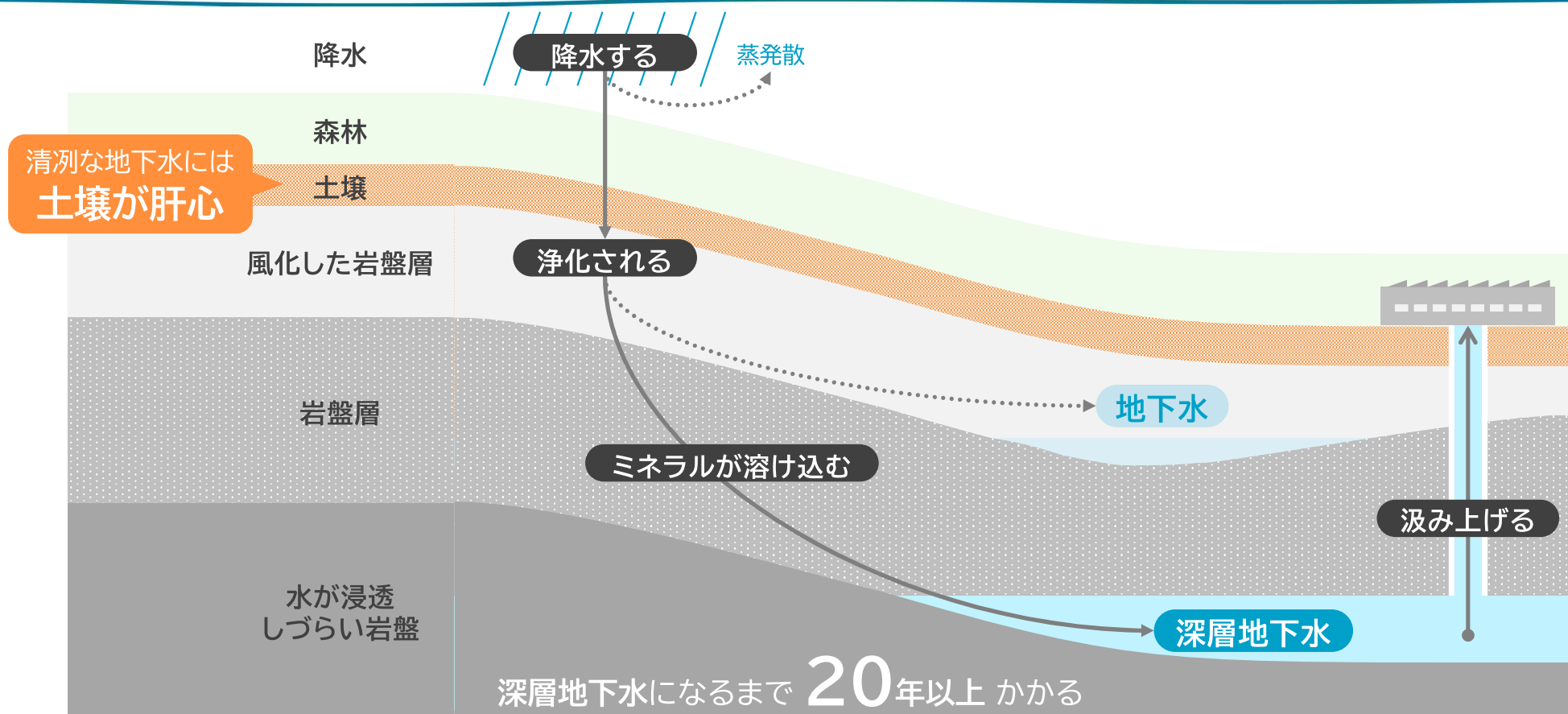
国内工場で汲み上げる地下水量の2倍以上を涵養し、“ウォーター・ポジティブ*”を実現

*サントリーグループでは、取水量以上の水を水系に育むことを「ウォーター・ポジティブ」と考えています。

地下水はどのように育まれるのか

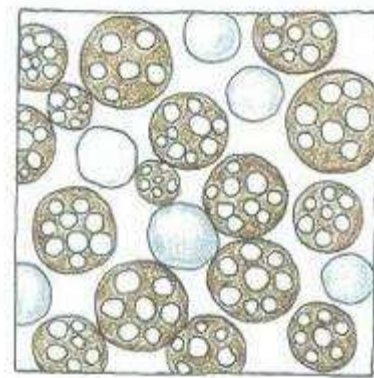
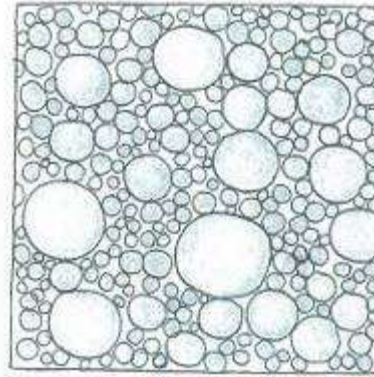
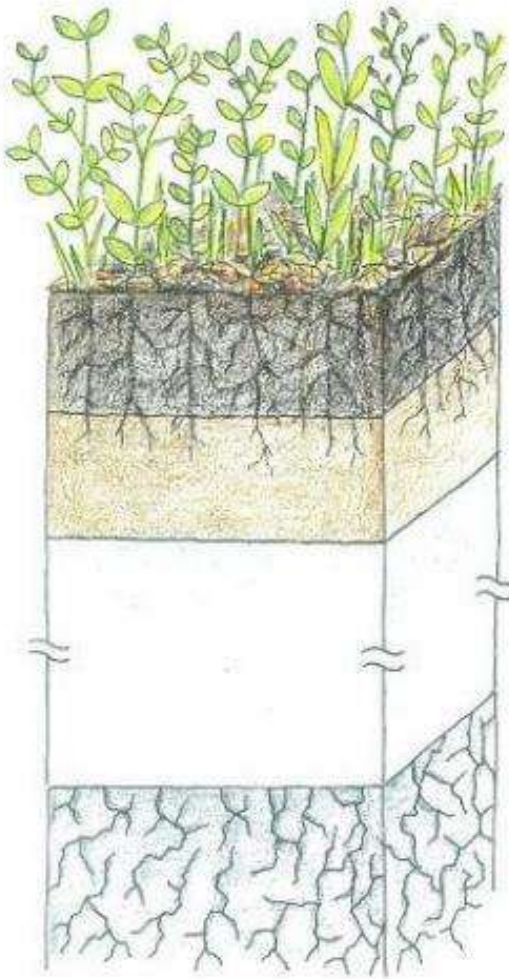
SUNTORY

地下水は下の図のように育れます。清冽な地下水を育むには、
雨水を地中に保水・浸透させる、スポンジのような「フカフカな土」が鍵となります。



「フカフカな土」とは

SUNTORY



砂や粘土だけの
無機質の土は、隙間なく
ぎっしり詰まっているため、
水が浸み込むことができません。

一方、森の中で落ち葉や草の根などの
有機物が供給されると、
土壌動物や微生物の力で土が
団粒化しフカフカな手触りに
変わってきます。
スポンジのようになった土壌には
雨水が浸み込みやすくなり、
また微生物的な**水質浄化機能**も
高まります。

豊かな地下水を育む「フカフカな土」

豊かな地下水を育むフカフカな土をつくるためには、適切に間伐することで日光が入る明るい森にし、下草や低木が生え、土壌生物が育つ環境をつくることが重要です。



手入れされていない
暗い森



- ×
- ×
- ×
- ×
- ×

天然水の森活動

森の整備
(間伐)

手入れされた
明るい森



- ◎
- ◎
- ◎
- ◎
- ◎

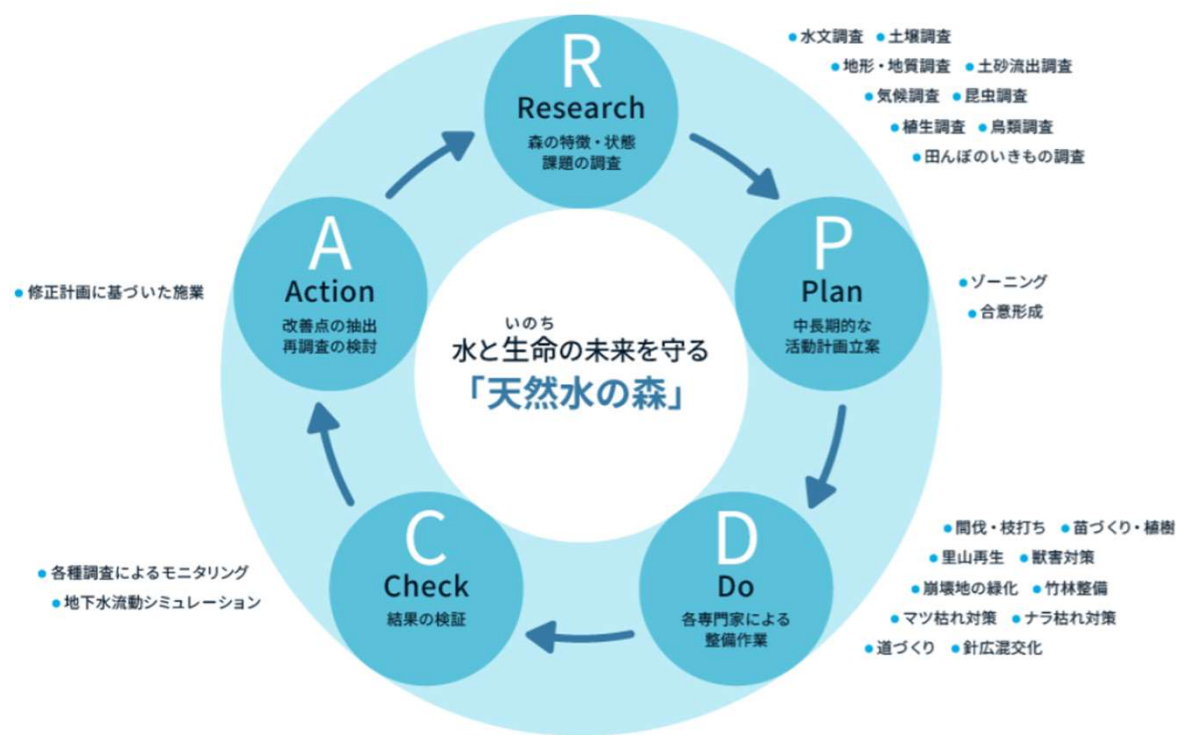


日光
↓
下草・低木
↓
多くの土壌生物
↓
フカフカな土
↓
豊かな地下水

「天然水の森」活動の独自性

SUNTORY

「天然水の森」は長い歴史と、科学的根拠に基づいた取り組みを多彩な専門家と共に、社員自ら活動を進めています。



「サントリー 天然水の森」活動の独自性

- Point 1** 工場の水源エリアで行う「基幹事業」であり、20年を超える歴史がある
- Point 2** 多彩な専門家と共に、科学的根拠のある長期取り組みを行っている
- Point 3** サントリー社員自らが現場に入り、活動している（他社のように完全な外部委託ではない）



「天然水の森」活動への評価

SUNTORY

「生物多様性のための30by30アライアンス」において、「天然水の森」の8カ所が「自然共生サイト」に認定されており、これは国内企業として最多です。

2022年COP15で採択

30by30目標

2030年までに、**陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全**しようとするグローバルな目標



目標	30%	30%
日本	20.5%	13.3%

※出典:環境省3by30 HP「30by30の概要について」

生物多様性のための30by30アライアンス



- ✓ 日本における目標達成のため、有志により発足(事務局:環境省)
- ✓ 地域・企業・団体によって生物多様性の保全が図られている土地を「**自然共生サイト(OECM)**」として国際データベースに登録し、その保全を促進

サントリーは2022年4月に加盟

国内企業
最多

8カ所の天然水の森が「自然共生サイト」に認定

2026年
現在



学びを活かした取り組み

SUNTORY

森本来の回復機能を整えることが生物多様性保全につながるという学びを活かし、ワシ・タカなどの猛禽類の生息環境整備など多様な命を守る取り組みを進めています。

学び

森を守り水を育むことが、
生物多様性保全にもつながる

生態ピラミッド



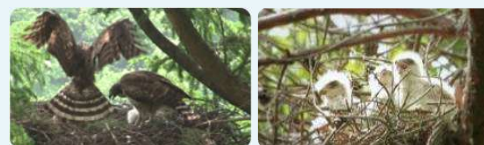
活用

取り組み事例

生態ピラミッドの頂点である猛禽類(ワシやタカ、フクロウなど)が生きていくためには、ピラミッドがまるごと守られている必要があり、「天然水の森」の整備が寄与する。

猛禽類は住宅難となっており、下記のような取り組みを実施

ワシ・タカ子育て支援プロジェクト



巣づくりの邪魔をしている広葉樹を除伐し、タカが巣に飛び込める空間構築や人工巢台を設置

フクロウの巣箱かけ



犬小屋ほどの大きさのフクロウの巣箱を設置

取り組みへの課題①

SUNTORY

「天然水の森」の土地所有者はサントリーではないので、
土地所有者の取り組みへの理解・共感・合意形成が非常に重要

自治体への活動計画・
実績の説明



関係するステークホルダーとの現地での
施業打ち合わせ

関係者で
協議会開催



地元住民への
説明会

取り組みへの課題②

SUNTORY

シカの採食圧により、日本の多くの森で下層植生の喪失に陥り、
生物多様性の危機に瀕してるといっても過言ではない



崩壊危険地や重要な植物が生えている場所を選んで柵で
囲み、柵の中を遺伝子資源の銀行として、将来に備える



シカ柵周辺を
通信型センサーカメラで
監視し、シカの侵入を
なるべく防ぐ取組





水と生きる SUNTORY

サントリーグループは、水や農作物など自然の恵みに支えられた
総合酒類食品企業として、「**人と自然と響きあう**」を使命に掲げ
人々の生活を潤い豊かにすることと自然環境を守り育むことが共存し
人と自然が互いにより影響を与えあって永く持続していく社会をめざします。



To create harmony with people and nature

